

自己評価報告書

平成23年 5月20日現在

機関番号：84413

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520672

研究課題名（和文）国家形成期における在地的道路網の復元と輸送・通信機能に関する考古学的研究

研究課題名（英文）Archaeological study on the transport-communication function of road networks in regional communities, during the State Formation Period of the Japanese Archipelago

研究代表者

京嶋 覚（KYOSHIMA SATORU）

（財）大阪市博物館協会 大阪文化財研究所 総務企画課長

研究者番号：00344359

研究分野：日本考古学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：交通史、道路遺構、考古学、初期計画道路、仏教・道教思想

1. 研究計画の概要

(1) 道路遺構の定義と道路状遺構の起源と集成

対象とする道路遺構の概念を定義し、道路遺構の発掘事例を集成して整理作業を行い、特にその初現期の資料について検討する。

(2) 輸送・通信モデルの研究

近畿地方とそれ以外の地域に分けて、交通に関連する遺跡を検討し、各地域における道路遺構の復元と輸送・通信の発達過程での意義について考察する。

(3) 輸送・通信体制の総合的考察と東アジア的評価

輸送・通信の総合的なモデルを抽出し、東アジアにおける日本列島の特質を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

(1) 地域を越えて外部の権力などにより設置された道路を「計画道路」と定義し、これを研究対象とした。7世紀中葉以前の初現期の計画道路は九州と近畿周辺に限定されることが明らかになった。

(2) 北部九州の壱岐や博多湾沿岸の諸遺跡が大陸との交易の拠点になっており、その港湾と道路遺構が重要な関係にあると推定されたことから、北部九州の事例が計画道路設置の初現的なモデルとして想定された。このモデルは近畿地方の古墳時代以降の道路遺構についても認められるが、近畿地方ではこのモデルを複合的に組み合わせた広域的な道路網の整備へと発達していることが、明らか

かになってきた。

(3) 日本列島における初期計画道路が、海・潟湖・河川の水上交通との関係で発達してきたこと、外交・貿易の交通体系と、宮都や官衙、計画的開発地域を結ぶ交通体系の一部として古墳時代以降に設置され、発達していったことが考えられるようになった。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

計画道路の内、初現期の道路遺構のモデルと意義づけが、後の計画道路全体の基盤になっていると考えられたため、その資料調査と検討作業に時間を費やし、律令期における体系的な交通制度の検討にまではまだ着手できていない。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 日本列島における計画道路発達の特質を規定する初期計画道路に関して、研究期間内での東アジア的視点からの総括をめざし、当初計画を変更して、そのための資料調査や検討作業を優先的に行う。

(2) この初期計画道路のあり方が、律令期の道路網整備にいかに関与したかを可能な限り検討し、体系的な交通制度についての今後の研究課題を提示する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ①京嶋 覚、初期計画道路の様相―河内「長原西古道」の検討―、立命館大学考古学論集、V、273～288、2010年、査読無

〔学会発表〕(計8件)

- ①京嶋 覚、日本における初期計画道路の考古学的研究、シンポジウム古代嶺南と大阪の出会い―道路・土器・鐵器―、2009年12月19日、国立大邱博物館(韓国大邱市)
- ②京嶋 覚、難波・河内の古代王権と交通路、金曜歴史講座、2010年7月30日、大阪歴史博物館(大阪)
- ③京嶋 覚、難波地域における古代道路交通の画期と背景、都城制研究会、2010年9月18日、大阪歴史博物館(大阪)
- ④京嶋 覚、住吉から奈良へ―磯齒津路、海と住吉、陸の住吉―シンポジウム、2010年10月8日、住吉大社(大阪)
- ⑤京嶋 覚、摂津と河内―二つの百済―、郷土文化講演会、2011年2月26日、大阪商業大学(大阪府)

〔図書〕(計1件)

- ①京嶋 覚(共著)、批評社(東京)、ニッポン猪飼野ものがたり、367(104～116)、2011年